

学長の業務執行状況の確認結果について

令和6年3月21日
国立大学法人宇都宮大学学長選考・監察会議

国立大学法人宇都宮大学学長選考・監察会議規程第3条第1項第3号に規定する学長の業務執行状況の確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認方法について

令和5年度第3回学長選考・監察会議（令和6年2月6日（火））において、事務局から、以下の資料に基づき説明があった後、学長から、令和5年1月から令和5年12月までの大学運営の取り組み及び今後の展開等について説明があり、次いで、学長選考・監察会議委員との質疑応答を行った。

- ・アクションプラン2022-2027達成ロードマップに基づく令和5年度年度計画及び実績報告（中間・期末）
- ・学長就任時の所信表明（令和2年9月16日）
- ・監事による業務監査の実施結果報告
「令和4年度国立大学法人宇都宮大学監事監査意見（報告）書」

2. 確認結果について

別紙のとおり。

以上

国立大学法人宇都宮大学学長業績確認結果書（総表）

総合評価	評価	4 期待する程度を上回った
<p>幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成するという宇都宮大学の基本方針の下、5つの学部と大学院の教育に専念し、地域社会へ貢献してきた。経済・商学・経営などの分野の人材育成は、地元企業からの大きな要望であったが、今回、データサイエンス経営学部が設置されたことは高く評価したい。今後はデジタル時代の未来を拓く学部として成長し、大学教育への大いなる貢献を期待したい。</p> <p>大規模大学等を中心とした研究費配分の流れ、そして、教員のマインドセットを変容させることは事柄の性質上簡単ではないという客観的条件のもとで、学長としてできる限りの取り組みを実施している。大学発ベンチャー企業増加に向けた取り組みや、研究成果の社会実装等、様々な仕掛けを行っており、数年後に大きな成果となって実ることを期待する。一方で、基礎的研究の支援や、若手教員への支援等の施策についても期待したい。</p> <p>精力的に社会連携・地域貢献に取り組んでおり、地域経営研究会の発足や、ゆうだい21戦略的普及プロジェクトなど、多くの施策が具体的に確実に進展した。今後、施策を進める中での新しい地域社会の姿、その中で宇都宮大学がどのような役割を果たしていくのかが期待される。</p> <p>コロナ禍により制限を受けていた各種国際交流事業を着実にスタートさせ、アフリカ世界展開力事業をはじめとし、活発な国際交流が実現した。国際的に通用する人材の育成のため、英語圏への留学を推進する等、大局的なビジョンの提示などでリーダーシップを発揮することを期待したい。</p> <p>組織内でのコミュニケーションを図ることは重要であり、大学構成員とのコミュニケーションに配慮し、大学への要望に応える努力をしたことを評価したい。成果を中心とする実績状況に基づく配分額の増加や戦略企画本部の機能強化等、多くの施策に具体的に取り組み、様々な進展が見られた。それらの施策を進め改革を行なった先に、宇都宮大学にどのような未来が待っているのか、迅速なリーダーシップを発揮し、更なる改善を期待する。</p>		

項目別評価〔教育〕	評価	5 期待する程度を大幅に上回った
<p>社会全般・経済活動などあらゆる側面でITやAIの適切な活用はますます重要な要素となってくるなかで、地元企業からの大きな要望を踏まえ、学長に就任されてから一貫した信念に基づき、「データサイエンス経営学部」の設置を実現されたことは、宇都宮大学の歴史に大きな進展として刻まれることであり、高く評価する。</p> <p>また、新学部に関連する大学院の新しい専攻として「データサイエンスマネジメント専攻」の検討により、大学・高専機能強化支援事業が採択されたことについて評価するとともに、宇都宮大学の先進的な取り組みが、栃木県内にとどまらず、我が国の発展の礎になることを期待する。</p>		

さらに、教育改革の推進として、論理的思考力・表現力・協働力等の学生に身につけてほしい汎用能力の「宇大スタンダード」を深化させ、基盤科目の再編を図ったこと、並びに「ルーブリック評価」の導入における学修者本位の成果の検証といった取り組みは、卒業後、社会人として組織の中で大いに活躍し、企業から期待される人材の育成へ繋がることを期待される。様々な教育改革が進められている中、その教育効果をしっかりと検証することが期待される。

一方、各学部の教員の声をボトムアップ的にすくい上げる姿勢は維持されているが、より一層の取り組みを期待したい。データサイエンス経営学部以外の既存学部等についても、引き続き学部関係者との意見交換等を密にし、それぞれの課題解決に向けた取り組みへの支援についても注力いただきたい。

また、学生のメンタルケアに対する組織的改善など評価できる一方で、形やシステムの整備だけではなく、いかに学生に寄り添うことができるか、教職員一人一人の意識改革を進め、実質的な支援体制について期待したい。

項目別評価〔研究〕	評価	3 期待する程度であった
<p>研究については、短期間で大きな成果が得られるものではなく、個別の専門分野における研究業績を積み重ねて成果が得られるものである。それに向けた異分野融合事業の推進、大学発ベンチャー起業増加に向けた取り組み等の仕掛けを行っており、数年後に大きな成果となって実ることを期待したい。</p> <p>信州大学を主幹とする「大学発新産業創出基金事業（スタートアップ・エコシステム共創プログラム）」は、信州大学に付属する形での採択ではあるが、研究シーズ発掘や社会実用化などへの人材育成等が期待される。現存の宇都宮大学発ベンチャー企業については、どの様な形で起業し、技術・特許など宇大の資産活用状況、並びに宇都宮大学や地域へどの様に貢献しているのかを明確にし、社会への情報発信に努めることを期待したい。</p> <p>また、大学が産業界と連携することは非常に重要ではある一方、大学は、独立しつつ研究を進める機関でもある。「持続可能な社会の実現に資する研究」等の Vision を推進するのであれば、ベンチャーやアントレプレナーシップ等に代表される産業界のニーズに偏りすぎることなく、環境面に関する研究や、社会の価値観の転換に寄与する研究等、学内における予算規模が小さい基礎的研究への支援も等しく進めることが重要と考える。基礎的研究の支援にかかわる取り組みが相対的に少ないと感じられた。</p> <p>さらに、大学発の技術シーズを社会実装させるという意欲を、如何に各教員に抱かせるかという点については未だ十分ではないと思われるので、教員の啓発とともに執行部としてのさらなる取り組みに期待したい。</p> <p>重ねて、大学の将来を見据えて若手教員を育成することも重要であり、博士後期課程の学生や若手教員が意欲的に研究活動を実施できる環境整備や、積極的に論文投稿するような施策についても期待したい。</p>		

項目別評価〔社会連携・地域貢献〕	評価	4 期待する程度を上回った
<p>精力的に社会連携・地域貢献に取り組んでおり、地域経営研究会を発足するなど、地域の市町村と連携したまちづくり等をはじめとし、地域の産業界との様々な連携を年々拡大し、顔の見える大学として地域から評価されていると考える。これに伴い、より多くの卒業生が自発的・能動的に本学の広報を担ってくれることを期待したい。</p> <p>学外から高い評価を受けたゆうだい21の普及についても高く評価したい。今後は、農業生産者、流通・販売など多方面の関係者と協力の輪を広げることや、大学への収入に貢献できる仕組みづくりを期待したい。</p> <p>また、リカレント教育の推進や栃木県のSTEAM教育推進事業への協力など、次世代を育成する視座も含め、幅広い学びの場の提供への取り組みも進められている。今後は、地域からこういった教育が必要とされているか、ニーズ調査の結果を教員にフィードバックするなどして、事業の充実を期待したい。</p> <p>一方で、大学で実践している市民社会・教育現場・住民・海外諸地域との社会連携や地域貢献についても目を向け、社会連携・地域貢献の幅を広げてほしい。</p>		

項目別評価〔国際交流〕	評価	3 期待する程度であった
<p>コロナ禍により制限を受けていた各種国際交流事業を着実にスタートさせ、対面とオンラインを併用し、活発な国際交流が実現した。</p> <p>アフリカ世界展開力事業に伴う国際シンポジウムの開催、及び、日本で就職を希望する留学生を対象とした就活ミニセミナー・ビジネス日本語講座・就活レベルアップ講座など様々な活動を実施し、アフリカとの交流、留学の推進などの積極的な取り組みを行った。今後は、具体的でより大きな成果を生むことを期待したい。</p> <p>現状では、アフリカ世界展開力事業の推進が目立った事業である一方で、今後、国際的に通用する人材の育成のため、英語圏への留学をさらに推進するなど、多岐に渡る国際交流に期待したい。</p> <p>さらに、安全管理に向けた取り組み、国際交流事業における課題の共有と解決へ向けたサポートや大局的なビジョンの提示などでリーダーシップを発揮することを期待したい。</p>		

項目別評価〔大学運営〕	評価	4 期待する程度を上回った
<p>質の高い議論や正しい意思決定をするためには、リスク情報をタイムリーに把握できる経営管理機能が備わっていることが大前提となる。トップマネジメントを基本としつつも、全構成員に学長の方から歩み寄り、真摯に耳を傾け、必要に応じて軌道修正を行い、アイディアの具体化や支援に邁進する学長の姿勢や行動は、風通しのよい組織を実現するだけでなく、全構成員にオーナーシップを持たせるに資するものであり、高い評価を受けるべきと考える。</p> <p>大学の予算・施設整備などについて、戦略企画本部に集約する体制整備に伴い、ヒト・モノ・カネ・情報の4大経営資源を一元的に把握し管理が可能となり、更に戦略的</p>		

な視点から安定した経営を推進している。

運営交付金が目減りする中で、文部科学省が指定する客観指標に対して宇都宮大学の実績を示すことにより、昨年度に引き続き本年度も増額配分となったことは評価でき、今後も更なる改善を期待したい。

一方で、構成員の恒常的な多忙化を鑑み、さらなる職場環境づくりに邁進いただきたい。組織的なガバナンスをさらに構築し、各部署の機能に関する把握と、適材適所な人員の配置に向けた迅速なリーダーシップを期待したい。

評価	評価内容
5	期待する程度を大幅に上回った
4	期待する程度を上回った
3	期待する程度であった
2	期待する程度を下回った
1	期待する程度を大幅に下回った